

## 《千葉県指定無形民俗文化財》

# 野田のばっばか獅子舞

ばっばか獅子舞は、古くは「子ササウ舞」ともいわれ、元禄6年(1693)、むさしのこくしもまくりむら武蔵国下間久里村(現在の埼玉県越谷市)の住人荒井平兵衛によって、清水・八幡神社に奉納され、その際、渡辺惣内、渡辺寛左衛門の両人が弟子として伝授を受け、今日まで引き継がれてきた。

昭和初期までは、境内にムシロを敷いて提灯の明かりの中で舞う習慣だったが、現在では境内に舞台を設置し、そこで演じられる。

この芸能は、獅子舞と棒術、居合術の三つの要素からなっており、まず、居合の「四方固」で場を清め、六尺棒、三尺棒、刀などの棒術、居合術が交互に「型」を演じる。

そして、獅子舞は太夫(たゆう)獅子、中獅子、雌獅子が腹につけた太鼓を打ち鳴らしながら舞うもので、厄除け、雨乞いを願ったものといわれる。

太鼓を打ち鳴らす音が「バツパカ、バツパカ」と聞こえることから「ばっばか獅子舞」と言われるようになったという。(昭和41年に千葉県無形民俗文化財に指定)

【日 程】令和6年7月24日(水)午後7時から

【会 場】清水・八幡神社

問合せ＝生涯学習課・内線 2651  
(直通) 04-7123-1366

野 田 市